2025 年 5 月 12 日

LNG 生産開発新時代へ - 2 件の FID

一般財団法人日本エネルギー経済研究所
資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット
上級スペシャリスト
橋本 裕

はじめに

4 月末・5 月初旬、米大陸で 2 件の新規 LNG 生産プロジェクトの FID（最終投資決定）が発表された。1 件は米国ルイジアナ州、他方はアルゼンチンで、生産規模は両プロジェクトを合わせて年間 1900 万トン分である。また両プロジェクトとも、今回投資決定分以降も大きな追加計画を有している。さらに両地域の他プロジェクトも続くことが期待される。

米国で豪 Woodside が推進する Louisiana LNG プロジェクトは、最初の 3 系列・年間 1650 万トン分について FID を発表したもので、2029 年に LNG 生産開始を目指す。米国の大型 LNG 生産案件として、2023 年 7 月以来の FID となった。アルゼンチンで 5 月初旬、Southern Energy FLNG プロジェクト 1 隻目・年間 250 万トン分の FID が発表された。

1. 米国で豪 Woodside Energy が開発を推進

Louisiana LNG プロジェクトは、2016 年より Tellurian 社が開発を進め、規制機関の建設許可・連邦エネルギー省による輸出許可取得済みながら FID 未到達の Driftwood LNG プロジェクトを、2024 年 7 月に Woodside が Tellurian 社自体も含めて買い取ったものである。

Woodside は、2025 年 4 月 29 日、同プロジェクトの最初の 3 系列開発の FID を発表した。2029 年の LNG 生産開始を目指している。本開発にはさらに 2 系列の計画があり、合計年間 2760 万トン分まで許可を受けている。

今回の FID でポイントとなるのは、リスク軽減および GHG 排出管理対策である。LNG プロジェクトコストの上昇傾向の中で、本件については既に建設契約の 95%について請負会社側と総額に関して合意しているとしている¹。また、FID 前ながら先行して土木作業は進展し、高額資機材の 90%超を発注済みとしている。関税対策については、米国内での調達比率の高さと保税地域活用により対処できることを明らかにしている。

FID に先立ち、4 月初旬、Woodside は投資会社 Stonepeak に、プロジェクトの設備保有会社 Louisiana LNG Infrastructure (InfraCo) の 40%を売却する契約を締結した。Woodside は自社持分を追加売却する話し合いを複数の相手方と進めている模様である。LNG 販売の面では、ドイツ Uniper との間で、複数の LNG 販売契約を締結した。Louisiana LNG からプロジェクト稼働開始より最長 13 年間・年間 100 万トンの LNG を、FOB（本船渡し）条件で供給する。子会社 Woodside Energy Trading Singapore が Louisiana LNG プロジェクト

¹ "WOODSIDE APPROVES LOUISIANA LNG DEVELOPMENT" 29 April 2025,
<https://www.woodside.com/docs/default-source/asx-announcements/2025/028-woodside-approves-louisiana-lng-development.pdf>

ト稼働開始から 2039 年まで、Woodside グローバルポートフォリオより最大年間 100 万トンの LNG を、欧州に DES（持ち届け ex-ship）条件で供給する。これらの販売は、前記の FID が前提条件であった。

FID 発表の翌日 4 月 30 日には、bp から原料ガスの一部を購入する契約を締結したことを発表した。独立認証機関 MiQ により認証を受けた低メタン排出原単位のガスにアクセスできるとしている。Woodside は、エネルギー企業によるメタン排出削減・管理対策のイニシアチブ OGMP 2.0 のメンバーとして、クリーンな LNG 供給を行う方針を明示した。

Woodside は、北米では Corpus Christi LNG から年間 85 万トンの LNG を購入する契約を 2014 年に締結しており、その供給を 2023 年から自社のグローバルポートフォリオに組み込んでいる。カナダ西部ブリティッシュコロンビア州 Kitimat LNG プロジェクト開発にも 2014 年に参加していたが、2021 年 5 月に撤退、同プロジェクトは実現しなかった。今回の FID により同社の北米での LNG 事業が本格化することとなる。

Woodside の取り組みと並行して、米国のプロジェクトでは、Energy Transfer 社が推進する Lake Charles LNG プロジェクトに MidOcean Energy が 30%参画する HOA（基本合意）を締結した。Kimmeridge 傘下の Commonwealth LNG プロジェクトでは、プロジェクト会社の 24.1%株式をアブダビの Mubadala Energy が取得することに合意した。フェーズ 1 設備建設中の Rio Grande LNG プロジェクトは、次フェーズ投資決定に向け、サウディアラビア Aramco、TotalEnergies 向けの販売取引を確保した。規制面の動きも重要²だが、出資パートナーとターム販売の確保が、LNG 生産プロジェクト推進のカギとなっていく。

2. アルゼンチンが本格 LNG 輸出に進出

アルゼンチンは、南米における巨大ガス生産国であるが、2008 年に季節需要変動対応のため、FSRU（浮体貯蔵・気化設備: LNG 輸送船舶を改造して船上に気化設備を設置し、LNG 輸入に活用する）を用いて LNG 輸入を開始した。2011-2013 年は、輸入した LNG の一部の再輸出・転売が散見された。その後、季節需要変動対応のための LNG 輸入も継続しながら、国内ガス生産増加に対応して、LNG 輸出構想も浮上した。2019-2020 年は小規模な FLNG（浮体 LNG 生産設備）を用いて、国産ガスを原料とする LNG 輸出を行った。

5 月 2 日、Harbour Energy、Pan American Energy、国営 YPF、Pampa Energía、Golar LNG が、Southern Energy FLNG 輸出プロジェクトの FID を発表した。同プロジェクトは、Golar LNG 管理下の FLNG 船舶 2 隻をリオネグロ地方沖に配備することを想定しており、2 隻合計で LNG 年間 600 万トン輸出容量を持つことを見込んでいるが、今回の FID は 1 隻目の年間 250 万トン分となる。2027 年末生産開始を目標としている。本件を第 1 号として、同国からさらに LNG 生産プロジェクトが期待される。

問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp

² 本ペーパーの附表参照

[附表: 米国 LNG 輸出プロジェクトに関わる規制動向 - 2025 年の主な動き]

月日	関連機関、対象プロジェクト、施策・指令等
1月21日	DOE: LNG 輸出許可手続き一時停止の終了宣言
2月7日	FERC: Venture Global CP2 追加環境影響評価書案を公表
2月14日	DOE: Commonwealth LNG 条件付非 FTA 輸出承認 FERC: Commonwealth LNG 追加環境影響評価書案を公表
2月28日	DOE: 海上輸送燃料としての LNG 利用制限撤廃
3月5日	DOE: Golden Pass LNG 輸出開始期限延長承認
3月10日	DOE: Delfin LNG 輸出開始期限延長承認 FERC: Corpus Christi Mid-Scale 8-9 建設承認
3月18日	連邦控訴審: Rio Grande, Texas LNG 向け FERC 許可の有効性継続を確認
3月19日	DOE: Venture Global CP2 条件付非 FTA 輸出承認
3月20日	DOE: LNG 輸出影響スタディに対するパブリックコメント期限
3月21日	MarAd: Delfin LNG 建設許可
3月28日	FERC: Rio Grande, Texas LNG 追加環境影響評価案公表
4月1日	DOE: 輸出開始期限申請上の制限を緩和
4月17日	USTR: 米国産 LNG 輸送の一部を米国船籍・建造とする規制導入
4月17日	DOE: Lake Charles LNG が輸出開始期限 6 年間延長を申請
5月9日	FERC: Commonwealth LNG 最終追加環境影響評価書確定